

-- JACD ----- No.33 ----- 5.1.2003

Newsletter-----

発行所

日本歯科色彩学会

発行人 片山伊九右衛門

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
明海大学歯学部保存修復学講座内
日本歯科色彩学会事務局
TEL 049-294-5429
FAX 049-294-5455 (FAX 専用)

ご挨拶

15年3月末をもって役員任期終了であります。先の総会で、継続の声が多く、4月1日から同じメンバーが2年間、引き続いて会の運営をとらせていただくことになりました。副会長には久光久先生に継続をお願いし、色彩専門家である元呑昭夫氏を加え、さらに初の女性副会長として細矢由美子先生に就任いただきました。3副会長はじめ役員諸氏からは、斬新なアイデアを頂戴して、会の発展を期します。

思えば、1988年4月17日には日本歯科審美学会が発足しました。色彩学を専攻している同好の士たちが、ようやく、歯科色彩について本格的な研究発表の場を得たと思いました。しかし、審美とは形態、機能、色彩の3部門に分けることができますが、その中の一つである色彩とは、多くは物理学と考えがちであるが、心理学、生理学、化学などの基礎学問と、色彩環境や照明工学などの応用面、ファッション、デザインなどの美学面など、さらに歴史をふまえた総合的な学問であって、歯科審美学の中での一部でなく、色彩について基礎的学究を基とし、これを通じて歯科医学、歯科医療などの発展に貢献しなければならないとの目的で、1992年8月29日、一和田俊樹、指宿真澄、片山、神津瑛、橋口緯徳、坂清子、久光久、元呑昭夫の各氏、およびクインテッセンス出版社の吉田隆編集長が集まって日本歯科色彩研究会（初代会長は橋口緯徳氏）を起し、1995年7月日本歯科色彩学会としました。

本会の行くべき方向については、初期の趣旨である、歯科色彩学の研究、お互いの情報交換、そして色彩を学ぶ場として初心者にも門戸を開くことであります。

現在は、学術大会、雑誌・ニュースレターの発行、講習会、見学会、ホームページによる情報提供と収集、外国との積極的な交流などが主な活動であります。とくに日本歯科色彩学会認定士制度は、歯科医師だけでなく、歯科技工士関係、歯科衛生士関係者に門戸を開いております。すなわち認定医でなく認定士であります。学術大会も10回、開催されております。中国においても4回の学術大会を開催することができました。

本学会発行の雑誌「歯科の色彩」には、年々研究内容が高度になっておりまして喜ばしいことです。また歯科色彩に関する論文と器材などの情報を毎年掲載しております。しかし会員の皆様には所属する専門分科会があり、この情報以外にも公表されていることであり、時には我々が目にしないままになっていることもあるのではないかと思います。そこで、会員相互の知識の交換に役立てるために、会員の皆様の色彩に関わる研究業績の調査を企画して、会員の皆様をお願いする予定です。できました業績集は会員に公表させていただきますので、皆様方の研究や勉強に役立てていただければと存じます。

会は皆様あつての会であり、皆様のための会であります。執行部が声を枯らして活動を称えても進むものではありません。皆様のご希望、ご叱咤あつての進歩発展があるものと確信しております。ご協力、ご指導をお願いいたします。

まずは再任の挨拶とさせていただきます。

2003年4月1日

会長 片山 伊九右衛門

お知らせ

1、第11回総会・学術大会の演題募集（締切り延長）

詳しくは、雑誌「歯科の色彩 Vol.9 No.1」に掲載

大会日時：平成15年7月27日（日）特別講演、シンポジウム、一般発表ほか

大会場：中央社会保険健康センター ペアール新宿 電話03-5285-8686

演題締切：平成15年5月末日 抄録締切：平成15年5月末日

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

明海大学歯学部保存修復学講座内 日本歯科色彩学会大会事務局（大会長 片山直）

参加費：事前登録（6月30日以前） 会員 6,000円 非会員 7,000円 学生 1,000円

当日登録（7月1日以降） 会員 8,000円 非会員 10,000円 学生 1,000円

振込先支店口座名 埼玉りそな銀行 坂戸支店（398店番）4677769（普通預金）

日本歯科色彩学会 2003年度学術大会

明海大学歯学部 049-285-5511（代表）石原祥世実行委員長までご連絡下さい。

2、日本歯科色彩学会認定士の申請について

認定士委員会は本年度の認定士資格取得希望者に対して2003年度の受付を開始致します。

本学会雑誌「歯の色彩 Vol.9 No.1」に記載されている、日本歯科色彩学会認定士制度規則をお読みになり要件を満たされている方で、認定士資格を取得すること希望する方は、はがきにて下記の宛に認定士申請書類の請求をしてください。

なお六月末までに、すべての書類のそろった方を対象に委員会で審査致します。

宛先 〒387-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮 1-12-35 埼玉歯科技工士専門学校内

日本歯科色彩学会認定士委員会事務局 宛

3、日本色彩学会第34回全国大会【新潟】2003

特別講演と公開講座は参加無料 会場：新潟市・朱鷺メッセ・3階〈万代島6-1〉

日本歯科色彩学会・日本色彩学会ホームページをお開きください。詳細は記載されています。

◆公開講座「歯科の色彩の現在：歯は白い？ 歯科と色のトレンド」

5月17日〈土〉13:00~15:00

協賛：日本歯科色彩学会・日本歯科大学新潟歯学部・明倫短期大学

司会：元呑昭夫（本学会副会長）

講師：片山伊九右衛門（歯科の色彩学）

加藤 喜郎〈歯の漂白〉、

木暮 ミカ（デンタルカラーコーディネーター）

5月17日〈土〉18日（日）には、特別講演1題、公開講座5題、一般発表65題があります。

4、第5届日中口腔色彩学術研究会

2003年8月25～27日 中国ウルムチ

上記大会については、SARSのために、無期延期となりました。

5、セミナーの企画 テーマ — 白 —

講師 齊藤美穂先生 早稲田大学人間科学部

歯科における「白」は漂白、白い歯など格別な意味を持ちます。交渉中。決り次第報告いたします。

また、認定士制度上での講習会は常時募集しております。次回は埼玉、そして大阪で行う予定です。

詳しくはInternet Explore 検索で「日本歯科色彩学会」で開いてください。詳しく掲載されております。

6、本学会雑誌「歯科の色彩」の送付について

先の総会で決まりましたように、会費滞納の方には、本年3月発行の雑誌 Vol.9 No.1 はお送りしていません。ご送金次第お送りいたします。

“春の彩りの中で”

3月のお彼岸の折、東京でお花見が出来るかと思っておりましたら、桜はまだ硬いつぼみでした。帰りの長崎空港からの道すがら、五分咲きだった純心女子高校や平和公園の桜は、この週末には満開でした。桜はとても種類が多く、色も白からショッキングピンクまでございます。これらをひっくるめて「ピンクの桜・チェリーピンク」と言う訳で、ふと「白い歯」という表現とオーバーラップしてしまいました。せっかく桜の花を目にしたのに歯の色の事など考えるとは無粋すぎますから、これは「花より団子」をやらなくてはと（またしても無粋）桜にちなんだ（口実ですけど）飲み物を揃えて友人と楽しみました。白い桜を讃えてシャンペンで乾杯し、染井吉野はロゼよりさらに淡い色だなどとのたまいながらこちらでも飲み干し、桜だけ祝ってあげては梅が可哀想だから紅梅のためにと押し入れに隠しておいた虎の子のロマネコンテの赤を開けました。ガラスの中の透明で美しい液体を五感と霞がかかった脳味噌で十二分に考察かつ堪能致し、色彩学の素晴らしさと奥の深さを証明したかの様な気分になったのは、単に酔いのせいばかりではない様です。大学の長坂を下りながら眺める夜桜も美しく、光が色彩に与える影響にまたしても驚きを覚えます。となりますと、アパートの近くのお酒屋さんで、日本の桜を堪能する為の試料を仕入れる必要が生じてしまう訳でございます。こちらは有田や唐津の焼き物に入れて、肉眼的比色をはじめると、これまたきりがなくなって困ります。

3月の中旬にAADRで発表の為にSan Antonioに行きまして。短期留学2回を含めるとSan Antonioは4回目ですので、まさに勝手知ったる他人の我が家で誠に居心地良く感じました。また、留学時の同僚、共同研究をさせていただいております先生方、日本から北米に留学中のいろいろな大学の若い先生方がとても良くしてくださったものですから、長崎に帰るのが嫌だとだだをこねそうになりました。今回はホワイトニングの発表がとても多く、色彩に関わる発表の割合が年々多くなっている様に思えました。ただ、とても気になりましたのは、国際規格には記載されていない数式で求めた測色値（オリジナルと言いますか、あるいは自分勝手と言いますか）を用いた発表が目につきました。これは国内でも目に致すところですが、自社の製品の売れ行きを良くする為に有効だからその様な色表示を作り出したのではないかなどと勘ぐりたくなるものの中にはございます。この点につきましては、本学会でもきちんとした見解を作成し、毅然とした態度で臨まなくてはならないと痛感致しました。

まじめに勉強に没頭しなくてはと思いつつも春は曙————。本の中の数式で示された色彩よりも風、空、花、緑そして光といった自然の中の色彩からの誘惑に抵抗しがたい季節です。

2003年3月31日

副会長：細矢由美子

見学会委員会主催 カラーマネージメントセミナー開催される

さる3月2日（日）、東京上野のヨシダ本社会議室にて、見学会委員会主催のカラーマネージメントセミナーが開催された。当初デモが見やすく、質疑応答がしやすいという配慮から、20名の参加人数を予定していたが、長崎、広島、大阪、新潟、松本、静岡、宇都宮など遠方からの申し込みも多く、会場の許せるぎりぎりの28名の申し込みまで受け付けるといううれしい誤算となった。もともとはセイコーエプソン見学の企画であり、会社のある塩尻まで訪問することも検討されたが、参加者の便宜を図って東京都内で開催することになった。たくさんの機材を搬送していただいた株式会社セイコーエプソンに感謝を申し上げる。

講師の深沢 賢二氏は、株式会社セイコーエプソンにてプリンタ、スキャナ、デジタルカメラ、プロジェクタ等のカラーマネージメント技術の開発に従事し、社外では、色彩学会、ICC、ビジネス機械・情報システム産業協会、電子情報技術産業協会などでカラー関係の標準規格の策定に携わっている、文字通りカラーマネージメントの第一人者の一人で、デジタルカラーの基礎から応用まで、朝10時30分から夕方5時まで丸一日、デモをまじえ初心者にもわかりやすい解説をしていただいた。

午前中は色彩の基礎と題し、色の表示法、色差の許容差、色順応と色恒常、色の見え、色の測定法などについてわかりやすく講義していただいた。その後、カラーマネージメントの基礎として、ICCプロファイルによるカラーマネージメントとsRGBによるカラーマネージメントについての解説があった。午後からはニコンのD100と、フジのS2Proの二つのデジタルカメラを用いて実際に口腔内を撮影し、モニタ、プリンタ、液晶プロジェクタのカラーマネージメントを行う方法を、パソコン上

での設定の仕方など事細かにデモしていただいた。概略を少しご披露すると、初心者にはsRGBによるカラーマネジメントが無難で、モニタの種類や色温度などをパソコン上で選択して使うべきで、アドビのガンマなどで目視でもよいから調節して使ってほしいということ。モニタの安物は買わないこと（特に液晶タイプ）。プリンタは用紙の設定をきちんとして欲しいということであった。

参加者に対するアンケートの結果は、役に立った。少し難しかった。時間が少なかった。デモをもっと多くなどで、もっと高レベルをという希望も2名ほどあった。パソコンの設定画面の解説などについてはもう少しゆっくりでもよかったのではと感じた。受講生のレベルの差に対する対応については今後の検討課題となった、同じ興味を持つ友人を誘えばよかったという声もあり、再度開催の希望が多かったので、今後の企画として検討することになった。

常任理事、セミナー担当 中澤 章

色彩の脳内地図

色彩学を研究する我々は、今や単に物理的計測の時代を超えて、官能という視覚の領域へ進むべきであることは言うまでもない。ここに具体的な実現に向けた研究が発表されたので、紹介する。

テキサス大学ヒューストン校医学大学院の Y.Xiao たちが NATURE/VOL 421/30.JANURAY 2003/WWW.nature.com に報告している。

演題は A Spatially Organized Representation of Colour in Macaque Cortical Area である。紹介された日本語をそのまま紹介する。

「我々が目にする色彩は、大脳皮質のV2という領域を活性化させているらしいと、彼等はマカクザルの様々な色の格子をみせて脳の活動状況をスキャンした。その結果によると、V2野にある細い縞模様には、色に感受性のあるニューロンが含まれていて、これらのニューロンは機能的な地図のように配置されており、刺激の色と、その刺激に対する反応活性が最大となる場所とが対応しているのだという。これまでは、大脳皮質のどの領域についても、色彩の表現が空間的に組織化されているかどうか、またどのような仕組みでそれが行われているのかは、ほとんど分かっていなかった。

大脳皮質V2野には、チトクロームオキシダーゼ陽性の細い縞の縞状領域の中に、色変化によく応答するモジュール構造があることが知られている。今回異なった色をもった格子が、この、モジュールの内外に、部位ごとに異なる反応を引き起こすことが見出された。内在性信号の光学記録によれば、別々の色に反応のピークを示す領域は、DIN（標準色票）の色並びと同じ順序で色空間に組織化されていることが示され、隣接部位同士は類似の色相の色ピークの応答を示したという。この色特異的領域は、幅0.07-0.32mm、長さ約1.3mm程度の帯状で、直線状から円弧状の形をしている。この知見は、V2野の細い縞状領域に、視覚刺激の色を活動ピーク部位の位置によって表現する機能的地図が含まれていることを示唆している。」

一方、小川誠二博士（浜野生命科学研究所財団小川機能研究所長）が2003年日本国際賞を受賞されている。受賞対象は「医学における視覚化技術」の分野で「磁気共鳴機能画像法の基礎原理の発見」で、賞状、賞牌、賞金5000万円（1分野）が贈られる。授賞式は4月25日、東京・国立劇場で天皇、皇后両陛下のご臨席のもとで行われた。

小川博士は、ヒトの体の生理的活動を被験者に対してほとんど無害な方法で視覚化する技術の基本原則を発見し、これにより広範な生命科学ならびに臨床医学応用への基礎を築いた。特に1990年に米国のベル研究所研究員だった小川博士が発見した機能的磁気共鳴画像法の原理（MRI）において、生理現象によって生じる信号の変化を視覚化するBOLD法の原理は、後にヒトの脳機能解析、臨床診断への道を開くなど大きな影響を与えた。小川博士は、BOLD信号によってヒトの脳の活動状態を非侵襲的に測定できることを光刺激に対す大脳視覚野の神経反応を計測することで実証した。

BOLD信号を使った医用画像技術は、磁気共鳴機能画像法（fMRI）と呼ばれ、脳科学や心理学の主要技術となっている。外科領域においても、術前診断、神経内科や精神科領域における診断および病態解明などに応用されている。

先の Y.Xiao たちの脳内地図という発見と、このMRI法を重ねた場合、人が感じた或る色が、他人によって読取ることができることも到来しそうである。ここに、歯科色彩学を専攻する、日本歯科色彩学会の会員が乗り込み、なにか大きな業績を残して、世間をあっと言わせる日を待ち焦がれるものである。